Thinking ECO+ 2024

スウェーデンハウスの
環境への取り組み

PLANET MOOSE

Sweden House

2024年10月発行

Thinking ECO+（プラス）とは？

Thinking ECOとは、スウェーデンハウスの環境問題に対する「改善活動」の基本スタンスを表現するものです。Earth Conscious（地球を大切にしようという意識と行動）について、社員一人ひとりが自分でできること、やるべきことを常に考え、行動すること。

近年、環境問題はこれまで以上に私たちの大きな課題となっています。環境のみならず、経済、社会の３要素を含めた世界共通の目標としてSDGs※（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）という地球規模の新しい枠組みが掲げられ、「いかにしてSDGsを実践し、目標を達成するか」、「未来社会にどのような貢献ができるか」を企業として考え、取り組むことが求められています。

当社では新しい時代に向けた環境スタンスを示す「Thinking ECO＋」として、「スウェーデンハウス環境ビジョン2030」を2020年よりスタートしています。

スウェーデンハウス環境ビジョン2030

1 自分たちでできる小さなECO活動を考え、行動（実践）する。

- 環境意識や知識を向上させるだけでなく、自分たちでECO活動を考え行動する。
- ECO活動を活性化するため、社員の自発的な活動を推進する組織をつくる。
  ➡ ECO活動推進チーム「プラネットムース」発足

2 環境負荷を低減する次世代住宅を追求する。

- スウェーデンハウス標準仕様の向上に取り組む研究開発
- 太陽光発電システム・蓄電池の採用率向上
  2030年目標として居住時のエネルギー消費量を炭酸ガス換算で50%（平成28年省エネルギー基準に対し）削減。
- 廃棄物の削減 ➡ 壁パネルの大型化による現場の廃棄物削減（作業効率・安全性向上）

3 森林資源の持続可能性と生物多様性を実現する。

- スウェーデンの森林法に基づき、適切に森林管理されたスウェーデン木材を調達

※ 2015年9月に国連で開かれたサミットで採択された世界共通の目標。17のゴール・169のターゲットで構成され、2030年に向けた世界のあるべき姿を提示するとともに、政府・企業へのSDGs達成に向けた行動を要請しています。

スウェーデン・ダーラナ地方の風景

Top Message トップメッセージ

高性能住宅に環境性能を備えた スウェーデンハウス

代表取締役社長執行役員
村井 秀壽

東京エコビルダーズアワード「リーディングカンパニー賞」受賞

近年、脱炭素化対策として住宅の断熱性向上が重要視されています。エネルギー消費の約3割を占める建築物分野での省エネルギー性能を推進するため、2025年には新築住宅において省エネルギー基準の適応義務化がスタートします。こうした動向の中、当社は東京エコビルダーズアワード「リーディングカンパニー賞」を２部門（断熱・省エネ性能部門、再エネ設備設置量部門）において受賞しました。東京都では脱炭素化施策としてスタートする「建築物環境報告書制度」に先駆け、環境性能の高い建築物の普及に取り組む意欲的な事業者を表彰する制度を本年度よりスタートしました。

当社は断熱性能など客観的な数値に加え、環境性能という観点において、適切に管理されたスウェーデンの木材を使用し、現地工場において100%再生可能エネルギーでパネルを生産していることが高く評価されました。

断熱・省エネ性能という点では、当社は1984年の創業時から「ハイグレード・ワンスペック」の理念のもと、今回受賞したリーディングカンパニー賞と同じスペックのスウェーデンハウスを普及してまいりました。40年間、積み重ねてきた経験と実績によって磨きをかけ、さらなる高品質を探求し、確かな技術力として信頼を得ています。また、「高気密・高断熱・計画換気」の３つをバランスよく相互に関連させることが快適住宅の源泉と考え、断熱性能のみならず気密性能においては、1999年からお引渡しする住宅１棟、１棟のC値（相当隙間面積）を測定して実際の性能を確認することで、高気密・高断熱住宅の施工技術を高めてきました。しかも、建築年数が経過しても住宅性能が変わらず維持されていることが、モデルハウスの解体調査・検証によって実証されています。

また、再エネ設備という点では、屋根材一体型の次世代型太陽光（アモルファスシリコン太陽電池）の実証実験を2023年9月より開始しました。これまで普及している太陽光パネルにおいては、20～30年で耐用期間を終えて2030年以降に大量廃棄やリサイクル問題が懸念されていますが、**アモルファスシリコン太陽電池は、①リサイクルの回収方法が確立。②ガラス不使用で防眩性があるため既存の太陽光パネルでは難しい北側面に搭載可能。③薄いフィルム型のため屋根加重を軽減でき美観も損なわない、**というメリットがあります。実証実験をスタートした背景には、再エネ普及促進だけでなく災害時の対応強化があげられます。

スウェーデンハウスを建てることは未来に向けた投資

スウェーデンハウスは適切に管理されたスウェーデン木材をふんだんに使った「木の家」です。木は伐採後、木材として加工されても二酸化炭素（CO_2）が内部に固定され、解体・廃棄されるまで貯蔵されます。当社の住思想は100年、150年と住み続けられること。そしてCO_2を固定化する木材を長く使いこなすことです。**スウェーデンハウスに住み続けることは、CO_2削減につながります。**日本の住宅は30数年で建て替えられることを考えると、長いスパンで見た持続的な森林資源サイクルに大きく貢献しています。スウェーデンでは100年で森林が約2倍に増えています。持続可能な木材資源の源となる森はさまざまな生物が住む場所であり、人間を癒し安らぐ場所にもなっています。スウェーデンではそれを「自然享受権」というひとつの権利として定めています。

100年後、150年後に向けて木を植え、育てる、そして木の家に長く住み続けることが、未来への投資となっています。

40年前、日本の住宅において「窓を断熱する」という発想はほとんどありませんでした。当社は創業時から熱の出入りの大きい窓（夏は73%熱が入り、冬は58%熱が逃げる）を最重要ポイントと考え、木製サッシ3層ガラス窓を標準装備しています。窓にこだわり続け、窓を自社生産する稀有なハウスメーカーです。私たちが重要視するのは、表面的な数字やスペックよりも、実際の住み心地や安全性であり、すべてのテクノロジーは住む人のためにあるという思想です。我々にとって窓はそれを象徴するものです。高性能住宅に環境性能を備えたスウェーデンハウスを普及することが、私たちの未来に対する責任です。

LYCKAS
Wellbeing

〈 Lyckas 〉
リュッカス

スウェーデン語で、
受け継ぐ、良い循環がずっと続く、成功するという意味。
Lycka【名詞】には幸せという意味があり、お客様と社員の皆さんの幸せを願う思いを込め、
良い循環がずっと続くというメッセージワード。

スウェーデンハウスはスウェーデンの森から生まれた木の家。
森の木は60～80年という長い歳月を経て、伐採され
「小さな森＝家」となって、日本へと届けられる。

木は「住まい」という形になって新しい生命が宿り、
そして、親から子へ、子から孫へと受け継がれ、”幸せの循環”が生まれていく。
スウェーデンハウスは、住む人の心地よさと健康を大切にし、
歳月が宝物になるような住まいづくりの輪を広げていく。

そして、スウェーデンの森は――。
50年、100年先の未来に向けて、
自然の恵みをずっと受け継ぐため、新しい木の苗が植えられる。

Lyckas（リュッカス）は、持続可能な自然の循環、
何世代も受け継がれる家に住む人の幸せの循環を表す言葉。
そして、お客様を幸せにする仕事は、
社員が誇りに感じる幸福感＝Wellbeingにつながり、
スウェーデンハウスを大きく成長させる原動力となる。

スウェーデンハウス事業理念

スウェーデンの住思想による本物の住まいを
美しい日本の文化と風土に調和させ
より豊かなライフスタイルを提案し
品質第一の施工でお届けすることで
資産として価値の持続する家づくりを実践します

スウェーデンハウス環境方針

スウェーデンハウスは、環境先進国スウェーデンの住思想を背景に、
天然木の香りあふれる家づくり、省エネ・快適性能の追求、
住宅の機能と価値の持続化、日本の風土への調和と融合を推進します。

これにより生活消費エネルギーの極小化、クリーンエネルギーの効果的な利用、
CO_2の長期固定化、資源の節約、廃棄物の削減と再活用をはかり、
生物多様性を尊重し、地域と地球全体の環境保全に貢献します。

1. 技術の進歩や環境の変化に対応し、常により環境負荷の小さな家を建てられるように、継続して改善を行っていきます。
2. 環境関連の法規制を遵守するとともに、必要な場合には、自主規制を定めこれを守ります。
3. 環境負荷の小さな家を提供するにあたり、企業活動のあらゆる面でのムダをなくし、資源の有効活用をはかります。
4. 持続可能な森林経営を支援し、生物の多様性を守るため、木材調達方針を策定します。
5. 全社員に対する環境教育を継続して行い環境意識を高めるとともに、協力施工店等に対しても、当社環境方針への理解と協力を要請します。

Sweden House
History 1

長寿命の家を建てることは
未来のために森に木を植えることと同じ

緑豊かな環境のスウェーデンヒルズ

木は石油や石炭などのエネルギー資源と異なり、伐採しても植林すれば再生産することが可能です。持続可能な資源として計画的に利用することは、地球環境にやさしい資源利用といえます。また、伐採後も燃やさなければ二酸化炭素（CO_2）が固定されるので、長寿命の「木の家」に長く住むことはCO_2削減に貢献します。

スウェーデンハウスは環境先進国スウェーデンの管理された森林で伐採した木材を使用し、現地工場で木質壁パネルや窓を生産し、長寿命の住宅を提供しています。スウェーデンハウスが誕生したのは1984年。バブル経済到来目前の大量消費の時代でした。当時、日本の住宅は25年から30年ほどで建て替える「消費財」であり、スウェーデンや欧米諸国のように築100年の住宅をリフォーム、メンテナンスして受け継ぐ「社会資産」ではありませんでした。

「住宅というモノを売るのではない。資産として価値のある家を普及する」。これは創業当時、新規事業に向けた意気込みを表した創業者の言葉です。品質を優先し、快適性を重視し、次世代に受け継ぐ資産価値のある住宅を普及すること。気密・断熱性能に優れた建物は居住時の消費エネルギーも抑えます。スウェーデンハウスに住むことは、まさに未来のために森に木を植えることと同じなのです。

Sweden House
History 2

環境と共生する街づくりから生まれたスウェーデンハウス

Sweden Hills

環境と共生したスウェーデンヒルズの街並み。

スウェーデンの住宅を建設することがきっかけとなり、1987年に当別町とスウェーデンのレクサンド市が姉妹都市提携を結びました。スウェーデンヒルズではスウェーデンの伝統行事である夏至祭が盛大に行われ、夏の風物詩となっています。

北海道石狩郡当別町にあるスウェーデンヒルズは、豊かな自然環境と調和した約500棟のスウェーデンハウスが立ち並ぶ住宅地です。誕生のきっかけは1972年にスタートした当別町のニュータウン開発。利益を優先した宅地開発ではなく、「環境と共生した街づくり」という、21世紀に向けた先進的なコンセプトによって計画されました。

【 街づくりのコンセプト 】

1 住宅街区面積約150ha（約45万坪）のうち、3分の2にあたる100ha（約30万坪）を森林として自然のまま残し、住宅エリアは丘陵地の斜面をいかし地形や景観を楽しめる住環境。

2 電線はすべて地中に埋設し、美しい街並みを実現。

3 住民が守る建築協定によって美しい景観・快適な環境を育てていく（住宅の外壁を定められた色から選ぶこと、敷地境界の塀も生垣か樹木にするなど）。

このニュータウン開発に参画したのは、段ボール製造企業の（株）トーモクです。北海道で木材加工業を手掛けていたトーモクの前身企業は、第二次世界大戦終戦直後、戦災復興住宅事業に取り組み、住宅生産量全国2位の実績を上げていました。しかし、その後金融引き締め政策の影響により、やむなく住宅事業から撤退。戦後の住宅不足を経て、「住宅の質」を求める新たな時代を担うべく、当別ニュータウン開発に参画したのです。

21世紀の新しい時代に向けた「環境と共生した街づくり」にふさわしい理想の住宅を模索し、新規事業を志す者たちは北米・北欧と先進各国の住宅を視察。100年住み継がれるスウェーデンの住宅と出会い、大きな衝撃を受けました。当時、スウェーデンでは世界に先駆けて気密性能基準が設けられるなど、当時の日本では想像もできない「住宅性能」を示していました。世界基準のスウェーデン住宅を当別町に建設するために、1984年、新規事業としてスウェーデンハウス(株)（2021年1月より前(株)）が設立されました。

Sweden House
History 3

スウェーデンハウスは創業以来、「窓を断熱」世界基準の高性能住宅を、全国に普及し続けています

「気密・断熱・計画換気」を高気密・高断熱の要と考えるスウェーデンハウスは、創業前の1980年、北海道石狩郡当別町のスウェーデンヒルズにスウェーデンから輸入した2棟の実験住宅を建設しました。当時スウェーデンの建築基準は世界に先駆けて気密性能基準が定められ、カナダの断熱基準R2000や日本の次世代省エネルギー基準（1999年制定）の基盤にもなりました。

1980年は日本で最初に省エネルギー基準が設けられた年でもあります。オイルショックを経験し、エネルギーの効率的な利用により石油依存率を抑制するのが目的でした。その後1992年には「新省エネルギー基準」として改定され、断熱性能の強化と気密住宅の適用などが加わりました。

日本の住宅性能の大きな変革期となったのは、1999年に改定された「次世代省エネルギー基準」です。初めて全ての地域に気密性能（C値）の基準が定められるなど、「気密・断熱・換気」に関する基準が整い、日本ではほとんど普及していなかった窓の断熱強化が必要となりました。当時の住宅ではアルミサッシ＋シングルガラスが多く用いられていましたが、断熱性能（Q値）基準をクリアするためには窓にペアガラス以上の性能が要求され、日本でも本格的に建物の断熱性能を高めようという機運が高まりました。しかしこの基準は「任意」であったために普及は進まず、2022年6月に「2025年度までに新築住宅について適合義務化する」ことが閣議決定されるまで、40数年もの時間が経過しました。

一方、スウェーデンハウスは創業時（1984年）から木製サッシ3層ガラス窓を標準仕様として採用し、省エネルギー基準をクリアしていました。そしてスウェーデンの高性能住宅をそのまま日本で建築するのではなく、台風や地震など、日本の気候風土に適した仕様に改良し、21世紀に求められる住宅性能を備えた住まいを普及し続けています。スウェーデンヒルズに建つ実験住宅は、竣工から今もなおその性能を維持し、美しく佇んでいます。

日本の省エネルギー基準の変遷

1980年 / 1984年 / 1990年 / 2000年 / 2010年 / 2013年 / 2020年 / 2022年 / 2025年

1980年（昭和55年） 住宅初の省エネルギー基準（旧省エネルギー基準）

1992年（平成4年） 新省エネルギー基準
- 各構造の断熱性能強化
- Ⅰ地域での気密住宅の適用

1999年（平成11年） 次世代省エネルギー基準
- 躯体断熱性能の強化
- 全地域での気密住宅を前提
- 計画換気、暖房設備等の規定追加
- 外皮性能評価基準の導入

2013年（平成25年） 平成25年省エネルギー基準
- 外皮性能評価基準の計算方法変更
- 一次エネルギー消費量基準の導入

2016年（平成28年） 平成28年省エネルギー基準
- 外皮性能評価基準の計算方法変更
- 平成25年省エネルギー基準の一部見直し

2025年（令和7年） 省エネルギー基準の適応義務化

省エネ関連制度における断熱基準（※6地域（旧Ⅳb地域 東京）の場合）	断熱等級2	断熱等級3	断熱等級4	断熱等性能等級	より高いレベルの断熱等級を新設
	Q値[W/㎡k]=5.2以下	Q値=4.2以下	Q値2.7以下	UA値[W/㎡k]=0.87以下	・断熱等級5（ZEH水準　0.60W/㎡・k） ・断熱等級6（0.46W/㎡・k） ・断熱等級7（0.26W/㎡・k）
スウェーデンハウス	Q値[W/㎡k]=1.17（2023年度の全棟平均値）			UA値[W/㎡k]=0.36（2023年度の全棟平均値）	

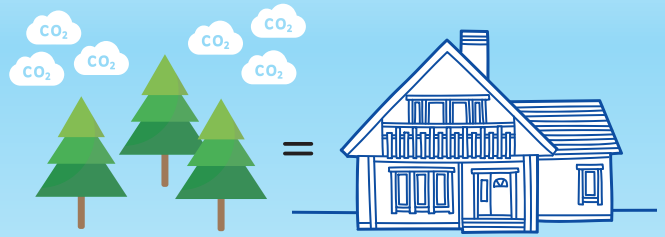
Sweden House
History 4

スウェーデンハウス1棟あたりのCO₂貯蔵量と建築するまでのCO₂排出量はほぼ同じ

※1　LCCO₂（ライフサイクルCO₂）とは、建築資材の調達から運輸、施工・建築、運用（居住時）、耐用年数終了（解体・廃棄）段階までの生涯を通じたCO₂排出量の総和。

創業時から高い省エネ性能により居住時のCO₂削減に貢献してきましたが、LCCO₂（※1）において、居住時だけでなく、建築するまでに際して発生するCO₂排出量の総和を算出しました。スウェーデンハウスは適切に管理された木をふんだん使った「木の家」です。木材にはCO₂が貯留されています。スウェーデンハウス1棟あたりのCO₂貯蔵量は約21.7t。一方、スウェーデンハウスが出来上がるまでのCO₂排出量は約24.6tとほぼ同じという結果になりました。つまり建築時にはほぼカーボンゼロを実現していることになります。

スウェーデンハウス1棟あたりのCO₂貯蔵量



- 木は成長時にCO₂（二酸化炭素）を吸収し、炭素を木の内部に固定する（蓄える）性質がある。
- 伐採した木が製材され、木材となっても吸収した炭素は閉じ込めたまま。
- 家を建てた後も木材は炭素を貯蔵し続けるため、長寿命の住まいでCO₂を固定化。

➡ CO₂削減に貢献

スウェーデンハウス1棟あたりの
CO₂貯蔵量
約21.7t※2

スウェーデンハウスが出来上るまでのCO₂排出量

スウェーデンの森の木が製材になるまで	16t / 4.95%
現地工場「トーモクヒュース」で製材・加工	0t / 0%（100%再生可能エネルギーにて製造。）
スウェーデン国内輸送	0.02t / 0.006%
海上輸送	4.76t / 1.47%
日本での国内輸送	0.12t / 0.04%
建築・施工	3.7t / 1.15%

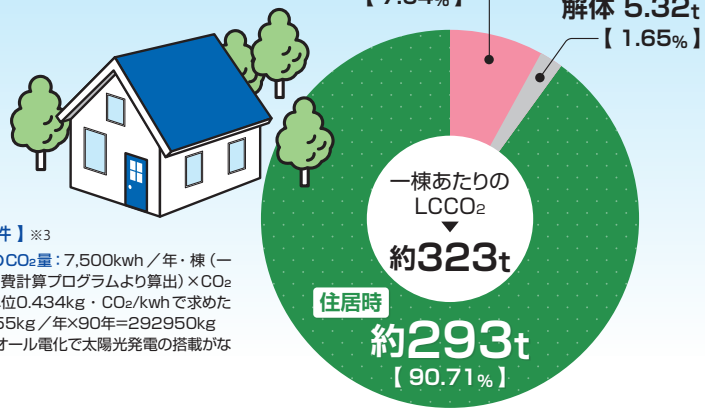
【解体（中間処理（廃棄・リサイクル）を含む）は除く　5.32t / 1.65%】

スウェーデンハウス
が出来上るまでの
CO₂排出量
約24.6t
【7.64%】

スウェーデンハウス1棟あたりの
居住時（90年）のCO₂排出量
約293t※3 ➡ 32.5t／年

【試算条件】※2
- 林野庁「建築物に利用した木材にかかわる炭素貯蔵量の表示に関するガイドライン」より。
- 床面積111.2㎡（2階建て）、構造躯体（製材、集成材、EW、合板）、造作材、胴縁等を対象に算出。
- オウシュウアカマツ、ドイツトウヒの木材の密度は実測値0.53・0.42（t/㎥）を用いた。

【試算条件】※3
- 居住時のCO₂量：7,500kwh／年・棟（一次エネ消費計算プログラムより算出）×CO₂排出原単位0.434kg・CO₂/kwhで求めた値⇒3255kg／年×90年=292950kg
- 6地域、オール電化で太陽光発電の搭載がない場合



Sweden House
History 5

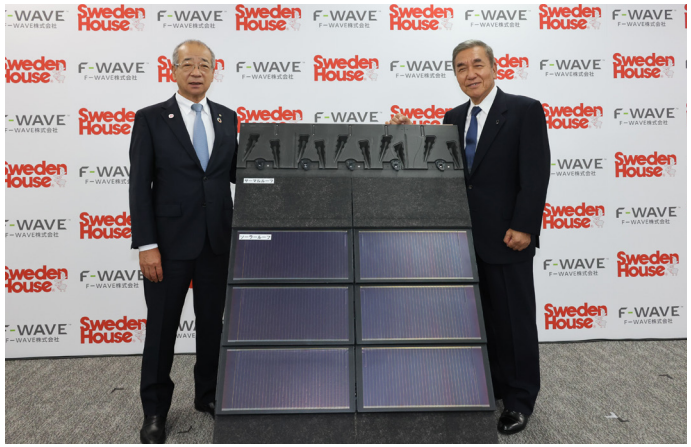
次世代型太陽光発電の新たな取り組み

フィルム型太陽光発電設備の実証実験開始

スウェーデンハウスは住宅では初となるフィルム型太陽光発電設備の実証実験を開始しました。2050年のカーボンニュートラルに向けて、住宅の更なる省エネ化、再生エネルギー活用が求められる一方で、異常気象（台風、猛暑、ひょう被害）の深刻化、災害への対応も迫られています。さらに現在普及しているシリコン系太陽光パネルは廃棄、リサイクルの問題があります。

こうした背景から、①災害に強く、②製造から廃棄まで環境にやさしく、③軽量な太陽光電の開発が必要と考え、新たな取り組みをスタートしました。

当社が採用したアモルファスシリコン太陽電池の特長は、薄型で軽量であり屋根の加重負担が軽減され、製造エネルギーが少なく、リサイクル性に優れているなどの優位性をもっています（右記参照）。さらに太陽光だけでなく、電気自動車（EV）が主流となる時代を見据え、太陽光＋蓄電池＋EV充電器との連携したシステムを検証しています。今後は長崎モデルハウスでの実証実験を経て、屋根全体のシステム（部材・施工の標準化）を構築し、2025年度に本格販売を目指しています。



スウェーデンハウスの村井秀壽社長（左）と共同開発を進めているF-WAVEの眞野重治社長。同社はプラスチックフィルムを基盤に使用したフィルム型アモルファス太陽電池を開発、大規模な公共建築物向けに商品化しています。住宅としては初となるアモルファスシリコン太陽電池を搭載した太陽光発電設備の実証実験を2023年9月から開始しました。

■ フィルム型（アモルファスシリコン）太陽光発電のメリット

- 薄型で軽量（ガラスを使わない）である。⇒ 建物の重量バランスが崩れない。
- 発電効率（9～10%）は低いが、防眩性があり北面にも設置できる（面積で補える）。
- 夏場の高温時でも発電効率が高い。
- 曇りでも発電できる。
- 耐風性能（風速49.2m／s試験合格）、衝撃性（鋼球を6.1mの高さから落としても割れない）、防火性（飛び火認定に合格）にも優れている。
- 耐久性は公共建築物等への設置で25年程度の実績がある。
- 海外メーカーにシェアを奪われている現状において、国内調達できる材料で太陽電池の製造が可能。
- 製造に要するエネルギーが小さい。
- リサイクル回収方法が確立している。

長崎モデルハウス

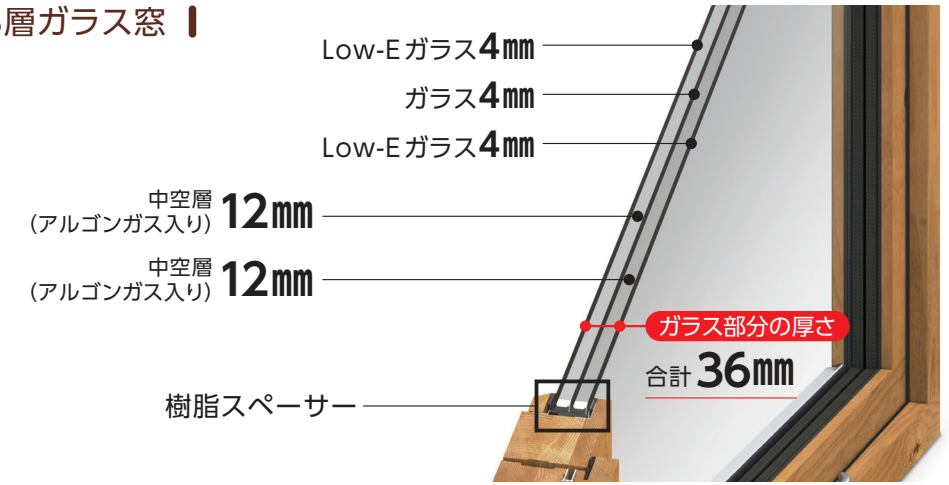
場　　所 ／ 長崎県諫早市多良見町東園556-15
竣　　工 ／ 2013年9月
　　2023年9月に改修し、実験を開始
延床面積 ／ 129.83㎡（39.27坪）

- 屋根勾配 ／ 4寸　● 屋根面積 ／ 190㎡（床面積:130㎡）
- 発電設置 ／ 南面1.67kW＋北面1.84 kW＋南西面:0.54 kW＝合計4.05 kW
- 年間発電量 ／ 4440kWhを想定

Our
Quality
Standard

家は、窓から。

木製サッシ3層ガラス窓



スウェーデンハウスの家づくりの基本となっているのは、「家は、窓から。」です。高気密・高断熱の性能を左右するのは窓が重要なポイントと考え、当社では木製サッシ3層ガラス窓にこだわり、標準装備しています。

なぜ、木製サッシなのか？木はアルミに比べて1700倍の断熱性能があり、湿度調整機能が備わっているので、高温多湿な日本の気候にも適した素材だからです。また木は持続可能な素材であり、生産時や廃棄時においてもアルミや樹脂サッシと比べて二酸化炭素の排出量が少なくすみます。

なぜ、3層ガラスなのか？1999年に制定された次世代省エネルギー基準以後、複層ガラスのサッシが普及していますが、断熱性能はガラスそのものよりも間に設ける中空層が大きなポイント。多くの複層ガラスでは中空層6㎜なのに対して、スウェーデンハウスでは12㎜。しかも３層ガラスなので中空層は12㎜×２＝24㎜。３枚のガラスの厚みと２層の中空層で36㎜もの厚みになります。ダブルLow-Eガラスは室内へ流入する紫外線を78%カット、日射熱を51%カットします。機能と美しさを兼ね備えた木製サッシの窓は、普遍性があり経年変化を楽しめることも魅力です。

さらに、当社では窓に対して絶ゆまぬ検証と追求を続け、性能はより進化しています。北海道のスウェーデンヒルズには1980年に建設された2棟の実験住宅と2017年に建設された次世代実験住宅があります。次世代実験住宅では高性能な住まいを追求するため、昨今の温暖化現象に伴い、断熱・遮熱性能を高めて実証実験を実施。室内側と室外側の窓ガラスをLow-Eガラス、中空層にアルゴンガスを充填。またスペーサーと呼ばれる12㎜ほどの小さな部品（写真参照）をアルミから樹脂に変えて標準仕様としました。尽きることのない窓に対する微細なこだわりが、住む人の快適さを生み出しています。

Our
Quality
Standard

「C値を測定。」

スウェーデンハウスではお引渡しするすべての建物、1棟1棟について「C値（相当隙間面積）」を測定し表示しています。C値とは、床面積（1㎡）あたりにどのくらいの隙間があるかを示す数値で気密性能を表します。例えば延床面積150㎡（約45坪）の住宅でC値が0.63（2023年度のスウェーデンハウス平均値）の場合、隙間面積は94.5㎠。これは家中の隙間を集めても名刺2枚分より小さいことを表わします。

気密性能を示すC値、断熱性能を示すQ値（熱損失係数）という住宅の数値基準が制定されたのは、1999年の次世代省エネルギー基準でした。スウェーデンハウスでは住宅性能をお客様にわかりやすく客観的な数値で理解していただくため、同年、「全棟高性能保証表示システムCQ＋24」の運用を開始。全棟にわたってQ値を計算し、建物の完成時にすべての住宅でC値を測定し、住宅の性能を表示してお客様にお引渡しするという画期的なシステムをスタートしました。

気密・断熱などの住宅性能は施工技術が大きく関係します。当初スウェーデンハウスのC値は全棟平均1.2で次世代省エネルギー基準（関東圏＝5.0）よりはるかに優れた数値でしたが、年々施工精度が磨かれ2023年には0.63まで向上しています。2013年の改正省エネルギー法の施行後は、新たな断熱性能を示すU値（外皮平均熱貫流率）も加えた「CQ24＋U」としてより詳しく性能を表示しています。

C値測定の様子

当社は❶気密・❷断熱・❸計画換気の3つが高いレベルで備わってこそ、快適な住まいが実現できると考えています。気密性能が低ければ、隙間から空気が出入りして快適な温度が保てず、断熱性能が発揮できません。また計画的に空気の流れをコントロールすることができず、換気システムによる空気の質を良好に維持できません。気密性能は、創業当初から妥協できない大切な数値です。

気 密

相当隙間面積　全棟平均
C値＝0.63㎠/㎡

※2023年度の平均値。値が小さいほど高気密。

断 熱

熱損失係数　全棟平均
Q値＝1.17W/㎡·K
外皮平均熱貫流率　全棟平均
U値＝0.36W/㎡·K

※2023年度の平均値。値が小さいほど高断熱。

計画換気

24時間熱交換型
換気システム
（第一種換気システム）

スウェーデンハウスの家づくり

家づくりの事業活動を通して環境保全・社会貢献に取り組んでいます

スウェーデンハウスは環境先進国スウェーデンの住思想と日本で育まれた住文化を融合させ、本当の豊かさを求めた住まいづくりを推進しています。
スウェーデンハウスで快適に暮らすことがそのまま地球温暖化の原因となるCO_2の発生を抑制。
次世代へと大切に受け継がれる「価値が持続する家」を普及するための事業活動を行っています。

1 適切に管理された森林から伐採された木材を使用

スウェーデン・ダーラナ地方にある現地工場「トーモクヒュース」で高品質の住宅部材を生産し、日本に輸入しています。スウェーデンハウスに使用されている木材は伐採サイクルが定められ、永続的な育成のために厳しく管理された森で育てられています。スウェーデン有数の木の産地であるダーラナ地方に現地工場を持つことで、高品質な木材が安定して確保でき、現地との連携により厳しいクオリティコントロールを実現しています。

2 プレカット・パネルの大型化を推進 廃棄物を削減

スウェーデンから輸入された部材は国内のプレカットセンターや各地の協力会社によって、高精度に加工され、建築現場へと搬入されます。プレカットやパネルの大型化によって現場での加工作業を削減し、廃棄物を削減しています。

3 最小限の太陽光発電で経済的・快適な暮らしを実現

CO_2の発生を抑制し、環境負荷の少ない家づくりを推進するために、優れた気密・断熱性能をベースに、高効率の省エネ設備機器や最小限の太陽光発電システムを採用することで、経済的・快適な暮らしを実現する新しい生活提案を進めています。

伐採・現地加工・国内プレカット 1 2 → 設計・提案 3 → 現場施工・工事 4 → お引き渡し・ご入居 5

4 建築現場での廃棄物を削減し産業廃棄物を適切に処理

適量の部材を的確に搬入するよう工夫し、資源やコストの無駄を最小限に抑えています。廃棄物の分別を徹底し、資源として再利用したり、リサイクルするよう努めています。建築現場から出る産業廃棄物を適切に処理するため、産廃業者の選定・指導とともに処理施設や処分場の視察・調査を実施しています。

5 住まいの快適性能を数値化してお伝えし、50年間無料定期検診制度でサポート

スウェーデンハウスがお引き渡しするすべての家が高性能であることを約束するため、「全棟高性能保証表示システムCQ24＋U」を採用しています。一棟一棟の断熱性能Q値・U値を計算、気密性能C値を実測し、その数値を表示してお引き渡ししています。また、耐久性に優れたスウェーデンハウスで快適に暮らしていただくため、50年間無料定期検診システム「ヒュースドクトル50」を取り入れています。

住宅のライフサイクルにおけるCO_2の発生は居住時が7〜8割を占めるといわれています。スウェーデンハウスは高気密・高断熱の優れた住宅性能により、夏の暑さ、冬の寒さの影響を受けにくく、快適に暮らしながらCO_2の発生を抑制しています。

P17参照

スウェーデンハウスの家づくり

生物多様性保全

森林管理から考える家づくり

木材調達方針

私たちは持続可能な森林経営を支援し、生物の多様性を守るため、以下の木材調達方針を新たに掲げ木材の調達に取組みます。

1. 合法に伐採された木材であること。
2. 森林の伐採量が成長量を超えない計画的な伐採によって産出された木材であること。
3. 合法的な森林管理によって生態系が守られている地域から産出された木材であること。
4. 生態系を恒久的に破壊するような、大規模な伐採によって産出された木材では無いこと。
5. 生物多様性を尊重した施業方法により更新された木材であること。

スウェーデン・ダーラナにある現地工場トーモクヒュースAB

持続可能な森林からの木材を使用

国土の3分の2（約2,800万ha）が豊かな森林におおわれているスウェーデン。かつて薪炭やパルプの利用のために森林伐採、自然破壊が進んでしまった反省から1903年に森林保護法が制定され、決められた樹齢に達したものしか伐採が許されていませんでした。伐採後には植林や天然更新を含め更新され、「育てる⇒切る⇒使う」というサイクルで森林資源を活用しながら計画的に森を育てているので、スウェーデンの森林は現在も増え続け、過去100年で森林資源の蓄積量は2倍（32億㎥）※になっています。当社はこの森林から生まれた樹齢80年前後の木材を利用しています。

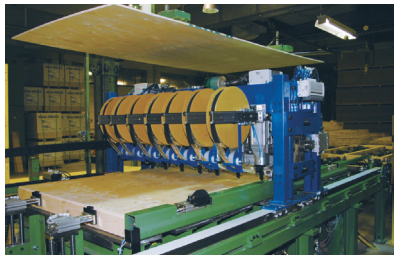
※出典：Forests and Forestry in Sweden（スウェーデン林野庁）

製材により発生した端材は バイオマスエネルギーとして活用

スウェーデン・ダーラナ地方にある現地工場「トーモクヒュース」では、スウェーデンハウスの木質壁パネルや窓が生産されています。生産の過程で丸太を製材すると端材が発生しますが、これらは木材チップとなりバイオマスエネルギーとして活用されています。木材チップによるバイオマスエネルギーは塗装窓の乾燥機や工場の暖房エネルギーとして有効活用されています。

気候風土の違いを現地工場で対応

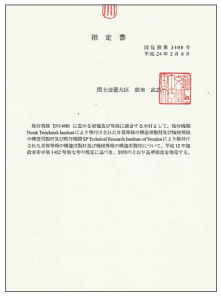
創業当時、スウェーデンの住宅をそのまま日本で建設することはできるか？という検証が行われました。スウェーデンにはない梅雨や台風など気候風土による違いが明らかになり、高性能の「輸入住宅」にさらなる改善が加えられました。日本で求められる水密性能や耐風圧性能の基準をはじめ日本の中でも紫外線量の多い宮古島と、夏と冬の寒暖差が激しい旭川で木製サッシの曝露試験を行い、それらのデータを現地工場トーモクヒュースにフィードバックするなど、高い品質を追求しています。



トーモクヒュースの作業風景

厳寒地で育つ目の詰まった強度の高い木材

スウェーデン材が良質な理由は、スウェーデンの気候と木が育つ地形にあります。冬になると氷点下の続く厳しい冬の期間、日照時間も短く、ゆっくりと時間をかけて成長することで、年輪がつまった堅くて強度の高い木に成長します。また、スウェーデンの森はフラットな地形のため、年輪の偏りがない品質の安定した良質な木材となります。その品質はEU加盟国の基準を満たす製品につけられる「CEマーク」の認証を受け、日本においても建築物に使用できる木材として国土交通大臣の指定を受けています。



材料強度の指定書

CEマーク

厳格な審査による窓製造者認定を取得

トーモクヒュースは、製品の品質をはじめ素材や製法、品質管理などの取り組みについて、スウェーデン国立研究所（Research Institutes of Sweden）による厳格な審査を受け、窓製造者として認定を受けています。窓に付けられたシリアルナンバーによって製造時期や材料・製品仕様がわかるようになっています。

スウェーデンハウスの家づくり

生産性と環境保全を両立したスウェーデンの森

スウェーデンハウスに高品質な木材を提供するスウェーデンのベルクヴィスト シリヤン社。
森と生きる理念で共感しあう30年来のパートナーである同社のウルフ・ベルクヴィスト会長
にスウェーデンの持続可能な森林、高品質なモノづくりについて語っていただきました。

1986年～2020年
ベルクヴィスト インション株式会社代表取締役

1999年～2020年
ハンデス銀行中央スウェーデン取締役会長

2006年～2019年
ベルクヴィスト インション株式会社取締役会長

2004年～2019年
スウェーデン森林産業協会理事

2019年～現在
ベルクヴィスト シリヤン株式会社会長

Ulf Bergkvist
ウルフ・ベルクヴィスト会長

高品質な木材を提供するサプライヤー

ベルクヴィスト シリヤン社は、製材だけでなく森林管理も含めた事業を行っています。木を植え、間伐をはじめ森の手入れに目を配って伐採することで適切な含水率、年輪密度をもつ木材製品となり、トーモクヒュースに出荷されます。住宅部材となった木材はコンテナ船に積まれスウェーデンの港を出港し、私たちは日本のオーナー宅まで旅をともにしていると考えています。

高品質な木材を提供するため、年輪密度を重視し、適切な樹齢の木を選んで伐採します。乾燥工程では、ひび割れや反りが起こらないための十分な管理を施し、なめらかで細かい鋸面になるよう加工することで、カンナ仕上げも良好になります。また、トーモクヒュースに出荷する木材にはEU加盟国の基準を満たすことを保証するスタンプ（CEマーク）を押すことが求められました。サプライヤーにとって要求品質の高い顧客を持つことは、緊張感をもってクラフトマンシップを培うモチベーションとなり、良いことです。

生物多様性と持続可能な森林を育てる

持続可能な森林は世界的なテーマですが、当社は森林や土地での活動に関するグローバルな基準であるPEFCの認証を企業として、林業会社として取得しています。スウェーデンでは林野庁が森林管理を徹底し、不適切な伐採であれば中止させます。森林評価が毎年、全国で行われ、森林が100年前の2倍に増えたという事実があります。素晴らしい成功物語だと思います。

森林を継続的に利用するため、植林、伐採、間伐、皆伐は、水路や川、小川、沼地などの近くでは十分に配慮します。また、遠い昔に人々が暮らしていた痕跡がある森も環境保全がしっかり行われます。間伐は森林を育てるうえでとても大切で、健全な生育を促し、木材の高い品質を確保するのに不可欠です。また、最終伐採では、枯れ木と生きた木をそれぞれ残し、森の多様な生物にとって良い環境が保たれるよう努めます。忘れてはならないのは、森には多くの種が存在し、かつ常に変化しているということです。私は子どもの頃、祖父と森へ行って釣りをしたり、狩りをするという日々を過ごしていました。もし、その時、「おじいちゃん知ってる？ 僕が70歳になる頃には、ここに熊、オオヤマネコ、カワウソ、ビーバー、アカシカ、カササギ、ハヤブサ、そして鶴がいるよ」と言ったなら、ユートピアの話をしていると思われたでしょう。しかし、今、これらを私たちは目にしています。スウェーデンの森では生物多様性の回復が進んでいます。

Bergkvist Siljan社
ベルクヴィスト シリヤン

敷地内には木材貯留地と製材所がある

ダーラナ地方にある近代的な製材所グループであり、製材製品のグローバルサプライヤー。シリヤン湖周辺に3つの生産拠点を有し、供給先は北欧、アジア、ヨーロッパ、北アフリカと世界中に広がる

豊かな森と赤い家並みが美しいシリヤン湖畔

認証材比率8割を超えるスウェーデン主体の北欧材を調達

当社は木材調達方針を策定し、生物多様性の保全と持続可能な資源利用を目指して、環境に配慮した木材の調達に取り組んでいます（P13参照）。この調達方針に基づいて適切に木材が調達されているか確認するため、主要な木質建材調達先（35社）に対して、調達実態調査を実施いたしました（2024年4月）。

調査結果では建物の主要部分となる構造材において、**A：認証材及び原材料が認証材である木材が86.4%、B：生産地の森林伐採法等に従って合法的に伐採されている木材が13.6%でした。これにより当社は認証材もしくは合法木材100%で調達している結果が得られました。**

国別調達先はスウェーデン（55.5%）、フィンランド（20.3%）の北欧材で8割近くを占めています。北欧の森林国では市場取引するうえで森林認証が不可欠という潮流があり、認証林比率がスウェーデン82%、フィンランド86%といずれも高い水準となっています（※）。主要調達先のスウェーデンでは1903年に森林再生のための「森林保護法」が制定されました。その後、時代とともに改訂されてきましたが、大きな転換となったのは1993年に生物多様性への配慮を加えた大幅な改訂です。自然の環境価値の保全は、森林の生産価値と同じくらい重要であり、適切な自然保護が盛り込まれました。

当社は1984年の創業時より、森林再生をはじめとした環境先進国スウェーデンの木材を使い、長寿命の住宅を普及し続けています。私たちが目指す「人が快適に暮らす」ことは、持続可能な地球環境の保全とともにあります。

※出典：PEFC Statitics及びFSC Statitics　国別の森林認証面積（2022年）

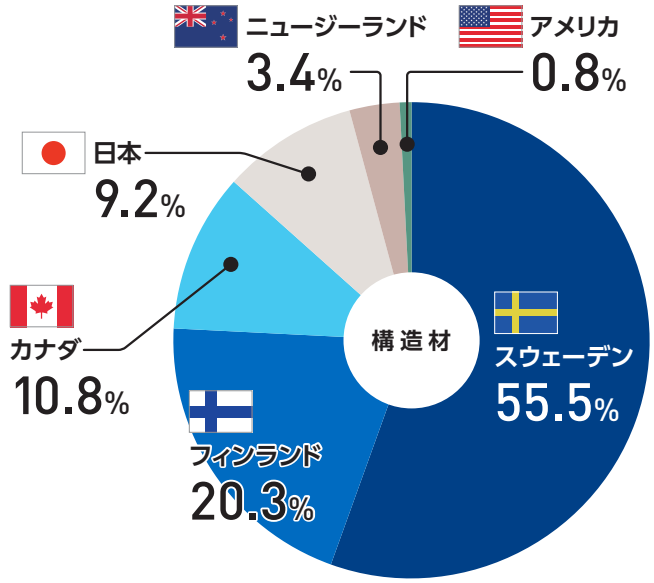
使用木材の区分

区分	内 容	比 率
A	認証材及び原材料が認証材である木材	86.4%
B	生産地の森林伐採法等に従って合法的に伐採されている木材	13.6%
C	伐採時の合法性が確認できない木材	0%

森林認証制度とは？

森林認証制度は、一定の基準に基づき適切な森林管理や持続可能な森林経営が行われているか審査し認証する「森林管理（FM:Forest Management）認証」と、それらの森林から生産された林産物の適切な加工・流通過程を認証する「CoC（Chain of Custody）認証」で構成されます。

国別調達先



最小限のエネルギーで快適な暮らしを実現

断熱性能は全棟の平均で基準を大幅にクリア

日本政府は脱炭素社会を目指し、2030年までに新築住宅の平均でネット・ゼロ・エネルギーハウス(ZEH)※1の実現を推進してきました。年間の一次エネルギー消費量がネットで概ねゼロになる住宅を実現するためには3つの要素として①高断熱外皮、②高効率省エネ設備、③創エネ設備が必要です。特に高断熱外皮でなければ省エネ設備や創エネ設備をつけても、その効果を十分に発揮することはできません。

スウェーデンハウスは国が定めた省エネ基準（平成28年省エネ基準UA値＝0.87[５～7地域]）や、さらに厳しいZEH水準（UA値＝0.60［4～7地域］）も標準仕様（UA値＝0.36）でクリアしています。高い断熱性能に加えて、優れた気密性能によって、使うエネルギーを大幅に削減できるため、わずかな太陽光発電パネルで年間のエネルギー収支をゼロにすることも可能です。

現在、日本は安定的な電力供給を受けることが困難な時代になり、最低限のエネルギーは自分で確保することが必要です。また、日中太陽光発電で発電し、余った電気は売電するのではなく、蓄電池との併用や昼間のうちに温水にする給湯器の導入などにより自家消費にまわす時代に変わりつつあります。

太陽光発電パネルによる『つくるエネルギー』を増やすのと同時に『つかうエネルギー』を削減することも大切です。そのため、スウェーデンハウスでは省エネ法による暖房、冷房、給湯、照明及び換気設備における建物全体の消費エネルギーの効率を表すBEI※2（小さい数値ほど高性能）という指標を重要視しています。国土交通省による「住宅トップランナー基準」のBEI＝0.80、ZEH支援事業における「ZEH＋」のBEI＝0.7を標準仕様でクリアするBEI＝0.58（2023年度スウェーデンハウス全棟平均）となっています。

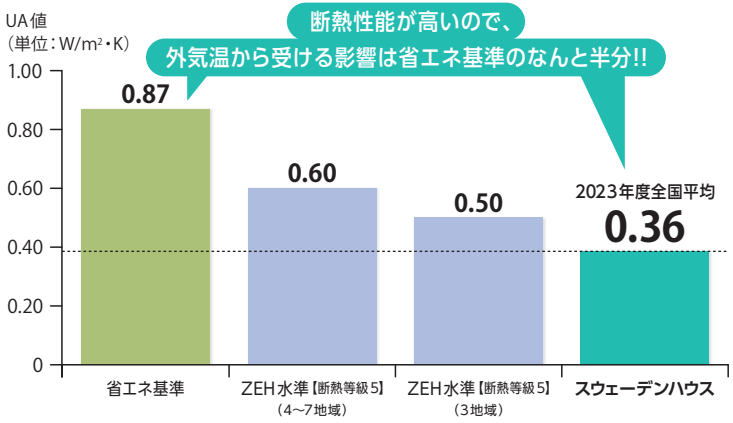
この数値は省エネ基準（2025年より義務化）の住宅に比べ、光熱費が42%少ないことを意味し、2030年に向けた自社の目標※3を設け、設備の更なる効率化を目指し、調査、研究を継続して行って参ります。

※1 創エネルギー量と消費エネルギー量が相殺されてゼロになる住宅。

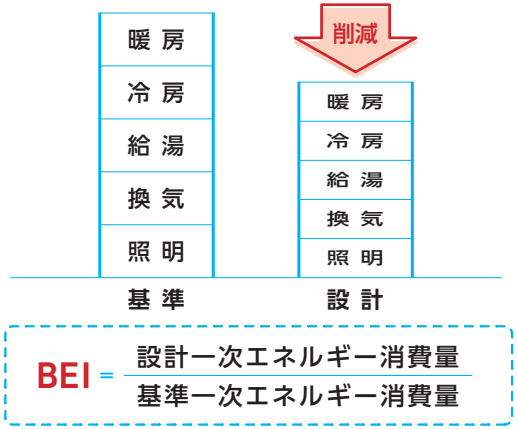
※2 BEI（Bulding Energy Index）（小さい数値ほど高性能となります）
● 実際に建てる建築の設計一次エネルギー消費量を地域や室使用条件などにより定められた基準一次エネルギー消費量で除した値。 ● 新築される住宅の一次エネルギー消費量基準に適合となる水準はBEI ≦1.0となる。 ● 対象となる設備は、暖房、冷房、給湯、照明及び換気。 ● その他のエネルギー(冷蔵器等の家電、調理によるもの)は含めない。 ● 太陽光発電がある場合、自家消費分のみ設計一次エネルギー消費量に反映することが可能。

※3 平成28年省エネ基準に対して、居住時のエネルギー消費量を炭酸ガス換算で50%削減。

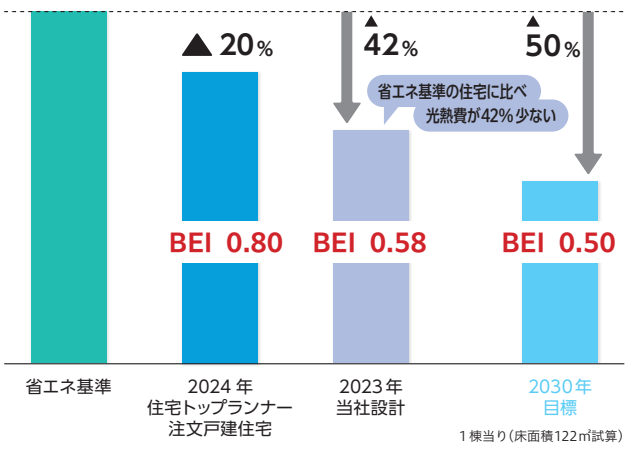
断熱基準（UA値※）及びその比較　※数値が小さいほど高い断熱性能を有します



一次エネルギー消費量の基準「BEI」とは



スウェーデンハウス 2030年目標



スウェーデンハウスの家づくり

住まいと暮らしのレジリエンス

～ 災害後も変わらない快適さを求める住哲学 ～

「大地震・風水害」に備える

近年、大規模な地震や気候変動に伴う災害が全国各地で頻発するようになっています。スウェーデンハウスは万一の災害にも安心な「モノボックス®構造」で、地震の揺れを「面」で受け止め、衝撃を全体に分散させて、高い耐震性能を実現しています。

大地震に対する強度を確かめるため、2003年3月に大規模な実大振動実験を実施。阪神・淡路大震災の2倍の振動をはじめ、想定東海地震の揺れなど合計19回にも及ぶ振動を実大の家に与える過酷な実験でしたが、構造上の有害な損傷を受けず生活空間を守りました。2019年には優れた耐震性能と耐久性に加えて更なる安心を追求するため、オリジナル制震壁パネル「HEIMDALL（ヘイムダル）」を開発しました。高層ビルに導入されていた制震技術を応用した摩擦系ダンパーにより、巨大地震の揺れに対する建物への衝撃を大幅に軽減します。

一方、台風や竜巻などの風水害に対しては、標準仕様の木製サッシ3層ガラス窓で豪雨を想定した水密性能、耐風圧性能の試験を実施。中高層ビルに並ぶ水密性能とビル23階までに使用できる耐風圧性能が実証されました。万一ガラス窓が破損した場合でも破片が飛散、脱落しにくいガラス窓も用意しています。

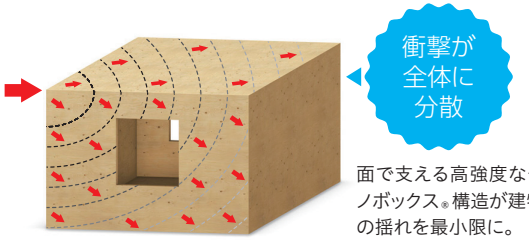
スウェーデンハウスは災害に強いだけでなく、災害後も以前と変わらず快適に暮らせることを住哲学としています。

「停電・断水」に備える

災害時には電気や水道などのインフラの断絶を想定した対策も必要です。スウェーデンハウスは高い気密・断熱性能があり、停電などで冷暖房が使えない状態でも外気の影響を受けにくく、安心して生活できます。

また、最小限の太陽光発電システム2kWを搭載すれば晴天時には、真夏のエアコンを自家発電で運転可能です。さらに、余った電力は蓄電池に蓄えておけば電気を無駄なく利用可能です。停電時に不安が増す夜間にも照明が使用でき、何よりも食料を保存している冷蔵庫を利用できて安心度が高まります。断水時には給湯器として設置しているエコキュートの貯湯タンクのお湯を生活用水としても利用できます。

独自のモノボックス®構造



面で支える高強度なモノボックス®構造が建物の揺れを最小限に。

実大のスウェーデンハウスで実験を行い耐震性能の高さを証明。地震後も快適に暮らせる生活空間を守り抜きました。

オリジナル制震壁パネル「HEIMDALL（ヘイムダル）」

スウェーデンハウスが基本性能として持つ極めて高い剛性に見合う制震システムを開発。那須秀行教授（日本工業大学建築学部　木質構造研究室）、スリーエムジャパン株式会社と連携し、3年にわたる研究、開発、実験を重ねて誕生させたオリジナル制震システム。

● 導入することで得られる3つの価値

- Merit ❶ いち早く揺れを収束させ、恐怖心を低減。
- Merit ❷ 内・外装材の損傷を軽減し、補修費も低減。
- Merit ❸ 連続する地震に威力を発揮し、資産価値を持続。

住宅用太陽光発電 ＋ 蓄電池

住宅用太陽光発電

太陽光を利用して自宅で電気をつくります。発電中は電子機器の充電や家電を利用でき、余った電力は蓄電池に送ります。

image

＋ 合わせて使うとさらに安心！

蓄電池

昼間発電できても、蓄えておかなければ雨の日や夜間に使うことができません。蓄電池に電気を蓄えておくことで、つくった電気を効率よく利用できます。停電時や夜間にも電気が使えるのでいざという時に安心です。

image

スウェーデンハウスの家づくり

頻発化・激甚化する災害にも耐える「MAKTⅡ(マクトⅡ)」を提案

スウェーデンハウスの安心を極める技術を集約

近年、異常気象、台風・ゲリラ豪雨、地震などの自然災害が頻発し、とくに南海トラフ地震など大規模地震に対する備えがより強化されています。当社はこうした災害にも揺るがず、世代を超えて住み継げる「真の100年住宅」として、安心を極めるスウェーデンハウスの技術を集約したパッケージ「MAKTⅡ（マクトⅡ）」を提案しています。

異常気象などによる厳しい外気の温熱環境に左右されない強化断熱仕様（断熱等級7）、さらに想定を超えた大地震が繰り返す有事に効果を発揮するオリジナル制震壁パネル「HEIMDALL（ヘイムダル）」を設定しています。また、耐久性と軽量化を備えた特殊合成樹脂屋根材「レビアルーフ」は、雹などの飛来物に強く、陶器瓦同等の耐久性を確保しながら重量は４分の１と軽量化し、頻発化・激甚化する災害に威力を発揮します。屋根材の軽量化は、巨大地震における倒壊対策にも大きく貢献します。

一方、豪雨などで浸水が懸念される地域に対しては、基礎に床下・床上浸水時の排水機能（水抜き孔システム）を装備するなど、「MAKT Ⅱ」はお客様のニーズや建築地の特性に応じて、必要なアイテムを組み合わせることができます。また、万一の時の火災・地震保険、地盤保証なども充実しています（※）。当社は2017年にスウェーデンヒルズ内に断熱仕様を強化した「次世代実験棟」を建設し（右参照）、北海道大学と共同で冬期室内温熱環境を測定するとともに、宿泊体験を実施して実際の快適性についても評価しました。2023年には実験棟の成果を踏まえて「強化断熱仕様」を販売開始。基本性能の強化とともに「MAKT Ⅱ」のパッケージから選択することで、頻発化・激震化する災害に勝つ「真の100年住宅」を実現し安心・快適をお届けします。

強化断熱仕様開発の歴史

2017年 スウェーデンヒルズ内に「次世代実験棟」を建設

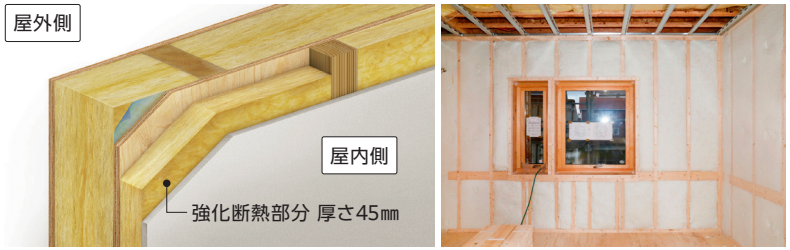
【 断熱仕様 】
- 壁厚220㎜内グラスウール充填断熱+壁内側45㎜厚グラスウール付加（現行の1-3地域における**断熱等級7相当**）
- 北海道大学 菊田弘輝助教（現・准教授）と共同で冬期室内温熱環境測定と快適性評価を実施

2022年 品確法で断熱等級7が設定される

2023年 標準仕様の外壁パネル（OP）の室内側にグラスウールを付加断熱する**「強化断熱仕様」を販売開始**
- 脱炭素に向けて東京都の取り組み「東京ゼロエミ住宅」を受けて**4-7地域・断熱等級7対応商品**「SAKITATE nästa makt（サキタテ・ネスタ・マクト）」をリリース

2024年 北海道石狩郡当別町「スウェーデンガーデン当別太美」内に「標準仕様」・「強化断熱仕様」の実験棟2棟を同一プランで建設し、室内温熱環境の測定を開始（現在継続中）

2024年 **「MAKTⅡ」仕様の販売を開始**



断熱 全国で断熱等級7を可能にする強化断熱仕様（UA値0.20～0.26）

屋根 高耐候性・高耐衝撃性かつ軽量な特殊合成樹脂屋根材「レビアルーフ」

※
保険 火災・地震保険の自社提供により災害後のスピーディな復旧をサポート

地盤保証 竣工引き渡し日より10年間、最高 5000万円を保証

高い品質管理・廃棄物削減・安全性を目指した取り組み

プレカットやパネルの大型化によって廃棄物削減・安全性を向上

スウェーデンから運ばれてきた部材は国内倉庫やプレカットセンターにストックされ、現場での作業効率を向上、廃棄物の発生を抑制するために材料のプレカットやパネル化（床・壁）を行っています。建築現場の部材搬入の際には「余分な部材は搬入しない、させない」を合言葉に無駄のない部材搬入を指示することで、予備材を最小限に抑えることを徹底しています。

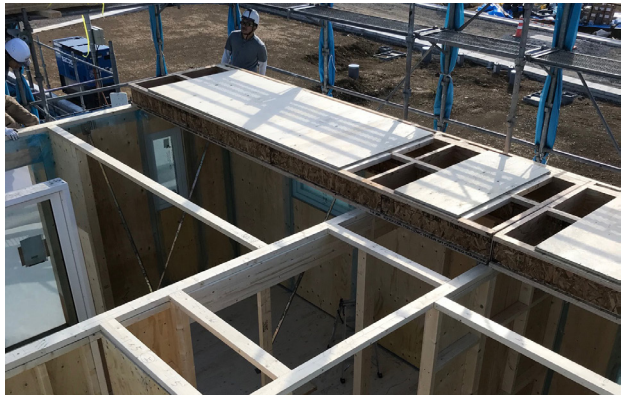
また、外壁のフルパネル化（写真1）、内壁の大型パネル化（写真2）、2階床合板付きパネル（写真3）の施工を実施し、さらなる❶廃棄物削減、❷工期短縮、❸安全性の向上を目指しています。標準パネル以外の外壁を国内でパネル化することや、内壁の大型パネル化（最大4.2m）を採用することで廃棄物を削減、工期の短縮とコストダウンにも貢献します。

これまで2階部分の床パネルは現場で合板を貼っていましたが、合板付きの床パネルを搬入することで作業効率が向上するとともに、墜落・転落災害も防止できます。こうした工夫により、現場で働く人の安全で安心な環境を整えています。

長く快適に暮らせる高性能住宅は徹底された現場づくりから生まれる

高気密・高断熱をはじめとするスウェーデンハウスの高い住宅性能を左右するのは、建築現場の技術力とそれを十分に発揮できる環境です。そのために、スウェーデンハウスでは「5Sの現場づくり」を実行しています。整理・整頓を習慣づけた現場の美化、廃棄物の削減、働く人の安全対策などを一冊にまとめた「Sweden House 5S HandBook」を建築現場で作業をするすべての社員や協力業者に配布し、周知徹底しています。

国内工場による外壁のフルパネル化（写真1）。



墜落・転落災害防止のために、2階床に合板付きの床パネルを採用（写真3）。

内壁の大型パネル化（写真2）。

5Sの現場づくりをまとめた「Sweden House 5S HandBook」

資産価値を維持するためのシステム「ヒュースドクトル50」

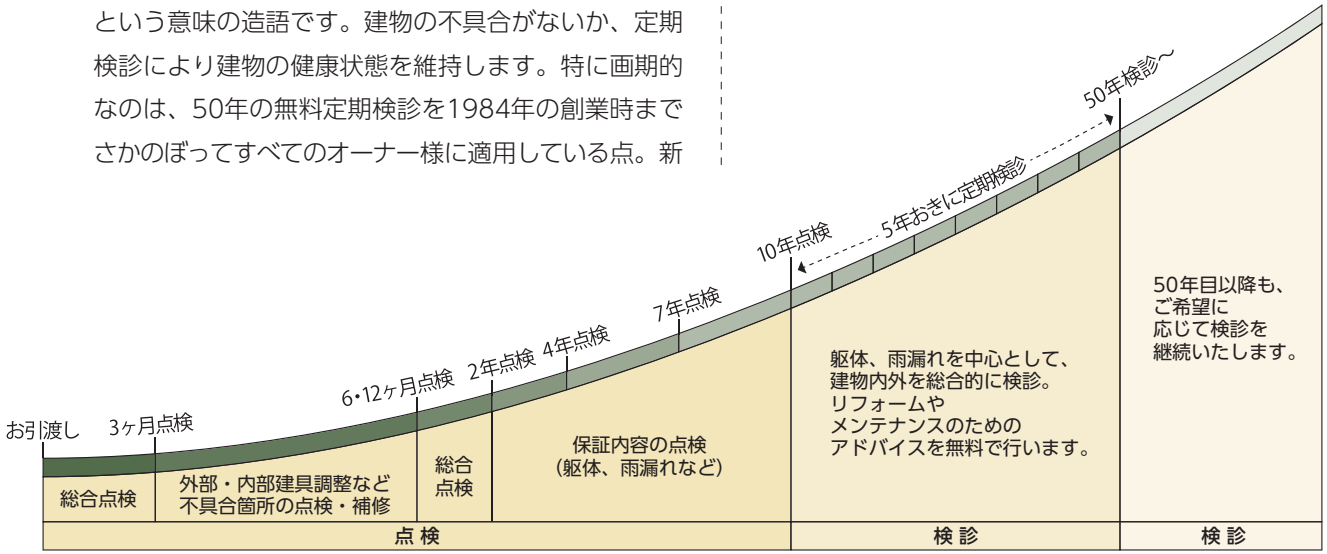
100年住宅にとって必要十分なメンテナンスシステム

2000年、住宅の保証期間が法律で10年と定められ、さらに建築業者が独自に特定の条件を設定することで上乗せし、20年以上を保証することができるようになりました。そんな中スウェーデンハウスは、2000年8月より50年間無料定期検診システム「ヒュースドクトル50」をスタートさせました。

100年住宅を提供する企業として、スウェーデンハウスは大切な住まいを守るために必要十分なメンテナンスの時期や方法を精査。ご家族の暮らしに寄り添い、お客様とともに住まいを大事に長持ちさせるという発想から生まれたのがこの「ヒュースドクトル50」です。「ヒュースドクトル」とは「住まいのホームドクター」という意味の造語です。建物の不具合がないか、定期検診により建物の健康状態を維持します。特に画期的なのは、50年の無料定期検診を1984年の創業時までさかのぼってすべてのオーナー様に適用している点。新築・既築を問わず、お引渡ししたすべての家に責任を持ってサポートしていくという当社の企業姿勢を示したものです。

メンテナンス履歴を確認できるオーナー様専用サイト「God Dag」

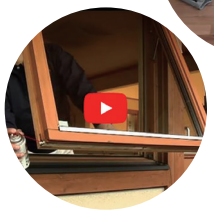
オーナー様専用サイト「God Dag（グッダー）」は、Web上で定期点検の時期や検診記録が確認できるほか、オーナー様ご自身のメンテナンス記録も登録でき、お客様とアフターケアの担当者は、いつでも情報を共有できます。また、セルフメンテナンスに役立つアイテムの販売や作業動画のご案内など、スウェーデンハウスライフを幅広くサポートします。



ヒュースドクトル
HUS DOKTOR 50
50年間無料定期検診システム

My Page

マイページではお引き渡しの日や、経過年数、お知らせの表示の他、大切なお住まいの点検・検診のスケジュールを確認することができます。さらに、オーナー様ご自身で行ったメンテナンスも記録できます。



お手入れ動画

メンテナンスの手順やポイントを動画でわかりやすくご紹介しています。オーナー様ご自身でメンテナンスを行っていただくために、さまざまな情報をご提供しています。

定期検診時にはメンテナンスを記録するチェックシートを使用し、きめ細やかな点検を実施。

イメージキャラクター「プラネットムース」

ECO活動推進チーム『プラネットムース』の活動報告

「スウェーデンハウス環境ビジョン2030」では、事業活動を担う社員一人ひとりの環境に対する意識や知識を向上させ、社員の自発的な活動を推進する組織としてECO活動推進チーム「プラネットムース」を発足しました。2023年度の活動の一部をご紹介いたします。地球環境のためには何ができるか？自主的にECO活動を考え、身の回りの小さなことでも実践していくことが「プラネットムース」の目的です。

活動報告1 40周年記念誌のメッセージワード「Lyckas（リュッカス）」を社員と共有

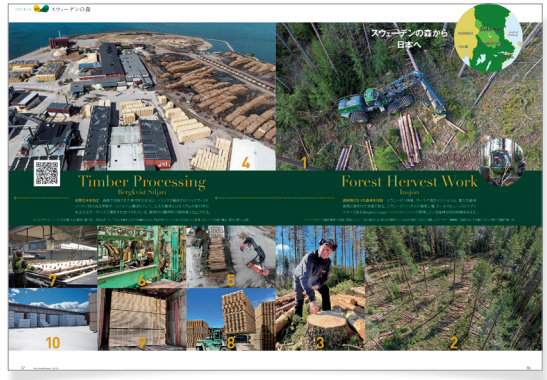
当社は1984年に創業し、今年3月1日に40周年を迎えました。節目となるこの機に40周年記念誌を発刊し、「Lyckas（リュッカス）」というメッセージワードを発信しました。スウェーデン語で「受け継ぐ、良い循環がずっと続く、成功する」という意味です。私たちは「受け継ぐ」という意味をいくつかの観点で捉え、未来に向けて進むべき指標としました。

1つ目は、次世代に受け継ぐ住文化の普及です。当社は高性能の住宅を親から子、そして孫へと世代を超えて受け継いでいく思想の普及を目指してきました。**2つ目は、持続可能な森林による循環です。**スウェーデンハウスの源流はスウェーデンの森にあります。40周年記念誌では、現地工場トーモクヒュースの協力を得て、実際にスウェーデンの森における伐採、丸太の運搬、製材、トーモクヒュースでの部材生産、鉄道輸送というサプライチェーンを取材・撮影しました。これまで知識としては理解していましたが、写真とともに動画も見られるよう工夫をして、社員や協力会社にスウェーデンでは持続可能な木材供給を実現し、100年間で森が約2倍に増えていることを周知し、環境面での価値を共有しました。

プラネットムースの活動は、事業活動を担う社員一人ひとりの環境に対する意識や知識を向上させ、自発的な活動を推進するものですが、40周年記念誌の「Lyckas」という言葉を通して、当社の環境貢献についてより具体的に理解を深めてもらうことができました。

40周年記念誌『The Story of SWEDEN HOUSE』の表紙（右上）と「スウェーデンの森から」をテーマにした誌面（上）。現地工場のあるスウェーデン・ダーラナ地方のシリヤン湖畔にある赤い家並み。

LYCKAS
Wellbeing



スウェーデンの森から日本へと海上輸送されるまでを取材・撮影して掲載。

関連会社・グループ会社

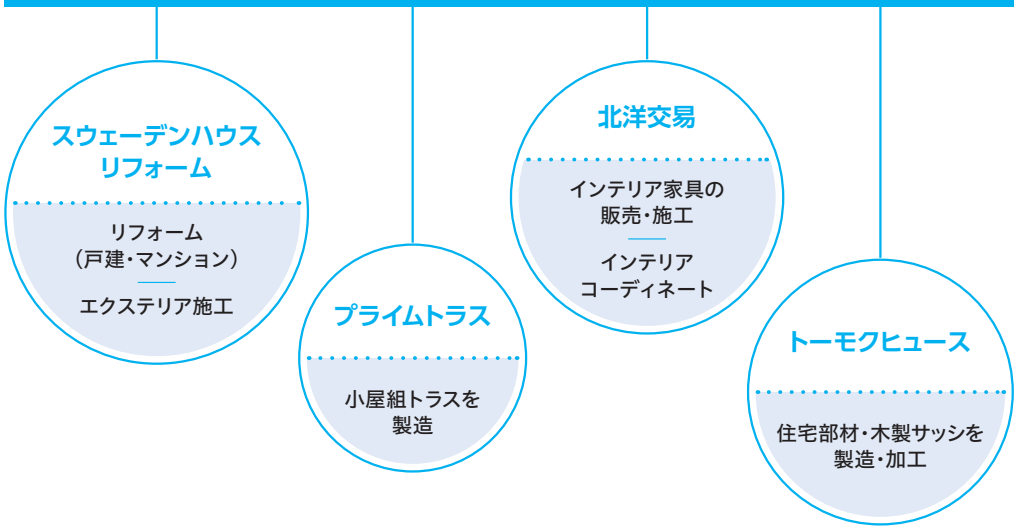
トーモクグループの住宅事業の核となる スウェーデンハウス

当社は株式会社トーモク（東証（プライム）、札証）のグループ会社として住宅事業の核となり、1984年から環境負荷の少ない、高性能でデザイン性の高い住宅を提供しています。

トーモクグループは「段ボール・紙器事業」、「住宅事業」、「運輸倉庫事業」の3つの事業を通じて、お客様の大切な商品の「品質」を包むだけでなく、消費者の皆様にとっての「価値」を包み、スウェーデンハウスが提供する住宅事業によって、すべての人々の豊かな「暮らし」を包むことで、グループ全体で付加価値の高いサービスを実現しています。

「スウェーデンハウス」

新築（戸建住宅、賃貸住宅、店舗併用住宅、医院併用住宅）、メンテナンス、輸入部材などの販売



スウェーデンハウス関連会社

■株式会社スウェーデンハウスリフォーム
〒211-0063
神奈川県川崎市中原区小杉町1-403
武蔵小杉STMビル7F
TEL：044-711-4158

■株式会社北洋交易
〒211-0063
神奈川県川崎市中原区小杉町1-403
武蔵小杉STMビル7F
TEL：044-711-4480

■株式会社プライムトラス
〒135-0042
東京都江東区木場2-15-12 MAビル2F
TEL：03-3643-3310

グループ会社

■株式会社トーモク
〒100-0005
東京都千代田区丸の内2-2-2 丸の内三井ビル4F
TEL：03-3213-6811

■株式会社トーウン
〒330-8541
埼玉県さいたま市大宮区土手町1-49-8 GM大宮ビル
TEL：048-647-3381

■株式会社ホクヨー
〒101-0047
東京都千代田区内神田2-15-11 翔和神田ビル4F
TEL：03-5298-5631

■TOMOKU HUS AB ※（トーモクヒュース）
Box 60 S-793 12 Insjön Sweden
TEL：+46-247-440-00

※AB＝株式会社

会社概要 | 認定取得・表彰・受賞歴

会社概要

● 社　名	株式会社スウェーデンハウス（英文名：SWEDEN HOUSE Co., Ltd.）
● 本　社	東京都世田谷区太子堂4-1-1キャロットタワー23F
● 設　立	1984年3月1日
● 資本金	4億円
● 代表者	代表取締役社長執行役員　村井秀壽
● 従業員	766人（2024年3月）
● 売上高	385億円（2024年3月）
● 主な事業内容	❶ スウェーデンより輸入する組立住宅の製造、販売 ❷ スウェーデンより輸入する組立住宅の設計、施工、監理 ❸ 不動産の売買、交換、または貸借の代理および媒介 ❹ 輸出入業
● 事業所	【本社】東京 【支社・支店】北海道、東北、北関東、千葉、東京、横浜、名古屋、関西、九州 【営業所】旭川、道東、道南、新潟、群馬、宇都宮、水戸、広島、大分
● 展示場	全国62カ所（SPSを含む・2024年9月現在）
● 株　主	株式会社トーモク　100%

2015～2024年 オリコン顧客満足度® 調査

ハウスメーカー 注文住宅

10年連続 総合第1位受賞

消費者に本当の良いサービス・企業を情報化することを目的として、株式会社oricon MEが「オリコン顧客満足度ランキング」を発表しています。ハウスメーカー 注文住宅では、2015年のランキング創設より10年連続でスウェーデンハウスが総合第1位の評価をいただきました。

認定取得・表彰・受賞歴

● 1986年	建築基準法38条システム認定取得
● 1992年	財団法人住宅・建築省エネルギー機構※　気密評定取得 省エネルギー住宅賞　硝子繊維協会会長賞受賞
● 1993年	建設省（現・国土交通省）乙種防火戸認定取得 北海道まちづくり功労者知事表彰受賞（スウェーデンヒルズにて）
● 1995年	貿易表彰　内閣総理大臣表彰受賞
● 1997年	財団法人住宅・建築省エネルギー機構※　省エネルギー住宅賞　建設大臣賞受賞
● 1999年	通商産業省（現・経済産業省）住宅・建築物高効率エネルギーシステム認定取得 財団法人住宅・建築省エネルギー機構※　環境共生住宅認定取得
● 2000年	財団法人住宅・建築省エネルギー機構※　次世代省エネルギー基準適合住宅評定取得
● 2001年	全事業所（マルチサイト）でISO14001の認定を取得（2016年7月29日をもって認証返上）
● 2002年	スウェーデン製材基準強度の大臣指定取得
● 2004年	地球温暖化防止活動　環境大臣表彰受賞
● 2008年	ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エレクトリック2007大賞受賞
● 2011年	東日本大震災における応急仮設住宅建設の貢献に対し、国土交通省から感謝状を授与される
● 2014年	ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジー2013特別優秀賞受賞 2014年度グッドデザイン賞受賞（木製サッシ3層ガラス網無し防火窓）
● 2015年 〜 ● 2024年	2015～2024年 オリコン顧客満足度®調査 ハウスメーカー 注文住宅 2015年の調査開始以来、10年連続 総合第1位受賞 東京エコビルダーズアワードでリーディングカンパニー賞受賞 当社は全2部門（①断熱・省エネ性能部門、②再エネ設備設置量部門）にて受賞

※財団法人住宅・建築省エネルギー機構は、現：一般財団法人建築環境・省エネルギー機構

2050年ゼロエミッション実現に貢献する新制度

東京エコビルダーズアワード「リーディングカンパニー賞」受賞

写真提供／東京都環境局

2024年2月19日、東京都庁にて東京エコビルダーズアワード表彰式が行われました。「リーディングカンパニー賞」受賞企業（断熱・省エネ性能部門9社、再エネ設備設置量部門8社）が一堂に集い、小池百合子都知事から表彰状とトロフィーが授与されました（当社は両部門において受賞）。

東京都は2050年「ゼロエミッション東京」の実現に向け、2030年までに都内の温室効果ガスを50%削減する「カーボンハーフ」を表明しています。今回の受賞は、2025年4月より脱炭素化施策としてスタートする「建築物環境報告書制度」※1に先駆け、環境性能の高い建築物の普及に取り組む意欲的な事業者を表彰する制度を本年度より開始されたものです。

「リーディングカンパニー賞」は報告書制度で定める基準の達成及び環境性能の高い住宅等の普及に向けて、より先進的な取り組み等を実施している企業のみを対象とし、特別に評価するものです。当社は断熱性能など客観的な数値に加え、環境性能という観点において、適切に森林管理されたスウェーデンの木材を使用し、現地工場のトーモクヒュースにおいて100%再生可能エネルギーでパネルを生産していることが高く評価されました。

※都内のCO_2排出量の7割超が建物でのエネルギー使用に起因しており、新築建物における年間着工棟数の98%を占める中小規模を対象として「建築物環境報告書制度」を新設。この制度の代表的な施策が「太陽光発電の設置義務化」。

TOKYO ECO BUILDERS AWARD

断熱・省エネ性能部門

評価ポイント

- スウェーデン現地工場（100%再生可能エネルギー）にて製造した木質壁パネル、木製サッシの採用（製造時のCO_2排出量が少ない）、木材をふんだんに使った炭素貯蔵がある木造住宅の普及。
- 適切に森林管理されたスウェーデンの木材を調達し、森林資源の持続可能性と生物多様性の実現。

TOKYO ECO BUILDERS AWARD

再エネ設備設置量部門

評価ポイント

- 次世代型太陽光（屋根材一体型のフィルム型アモルファス太陽電池）の実証実験、災害に強い太陽光発電パネルの開発。
- 蓄電池やV2H、停電時における電力使用における設備の設定、自然災害発生時の対応力。